

会 議 録 (要約版)

会議の名称	平成28年度第1回弘前市上下水道事業経営審議会			
開催年月日	平成28年5月13日(金)			
開始・終了時刻	午前10時から 12時まで			
開催場所	弘前地区消防事務組合消防本部 3階「大会議室」			
議長の氏名	弘前大学人文社会科学部教授 飯島 裕胤			
出席者	会長 飯島 裕胤 <small>会長職務代理者</small> 野澤 武 委員 関 光博	委員 村上 照彦 委員 木村 留次郎 委員 小林 紘子	委員 佐々木 薫子 委員 齋藤 輝江	
欠席者	委員 成田 祥子			
事務局職員 の 職 氏 名	上下水道部長 佐藤 嘉哉 工務課長 山上 信俊 下水道施設課長 目賀田 年昭 総務課長補佐 竹内 伸幸 上水道施設課長補佐 佐藤 克嗣 総務課主幹 小野 敦弘 工務課計画係長 千葉 裕朗 上水道施設課主幹 熊谷 裕一 上水道施設課浄水係長 丹代 喜代一 下水道施設課主幹 田沢 司 総務課主幹 佐藤 孝子	総務課長 會津 雅彦 上水道施設課長 坂田 一幸 総務課長補佐 木村 勲 工務課長補佐 棟方 勝雄 下水道施設課長補佐 山本 正行 工務課主幹 寺山 敏彦 工務課主査 相馬 孝康 上水道施設課主幹 京野 直文 下水道施設課総括主幹 工藤 博幸 <small>下水道施設課下水管路維持係長</small> 竹谷 新一 総務課総括主査 対馬 真		
会議の議題	1 委嘱状交付 2 開会 3 事務局紹介 4 上下水道部長あいさつ 5 会議 (1)平成28年度予算について (2)水道事業におけるアセットマネジメントについて (3)その他 6 報告 7 閉会			
会議資料の 名 称	資料1-1 平成28年度水道事業会計予算の概要 資料1-2 平成28年度下水道事業会計予算の概要 資料2-1 水道事業におけるアセットマネジメント 資料2-2 水道事業におけるアセットマネジメントについて			

<p>会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>5 会議</p> <p>(1) 平成28年度予算について</p> <p>平成28年度「水道事業会計予算」及び「下水道事業会計予算」について事務局より説明。各委員との質疑応答は以下のとおり。</p> <p>齋藤委員</p> <p>樋の口浄水場運転管理業務を委託しているクボタ環境サービス株式会社は、どのような企業なのですか。弘前市内の企業でしょうか。</p> <p>上水道施設課長</p> <p>水処理施設のメンテナンスをしている会社です。 仙台に東北支社がございます。</p> <p>関委員</p> <p>何社かで入札をした結果、クボタ環境サービス株式会社を選んだということですか。</p> <p>上水道施設課長</p> <p>平成26年度に、プロポーザル方式で入札いたしまして、3社の申し込みがあり、その中でクボタ環境サービス株式会社さんに決定しております。</p> <p>木村委員</p> <p>予算も大きな中で、国の補助金というのが14.7%そこそこということで、やはり独立採算制ということで国の指導とか何かあるということなののでしょうか。</p> <p>総務課長</p> <p>補助金につきましては、下水道であれば半分近く国からの補助金がきたり、上水道事業であれば、例えば耐震管事業や老朽管更新事業であるとかは、3割、2割5分の補助金が示されます。</p> <p>基本は上水道・下水道ともに皆様から頂いている水道料金、下水道使用料、それから国からの補助金など、それらすべてで経費を賄っております。この経費は職員の給料から全てです。ですから、人口が減少していった水道料金等がだんだん減っていくと、それだけ収入が減り財政的にも厳しくなるので、いろんな形でコスト削減したりして、経営の健全化を図っております。</p> <p>木村委員</p> <p>しかし、既存の施設を人口が減ったからと言って一部廃止ということには出来ないでしょう。これも災害とかを考えると、必ずしも人口に比例して事業をするのではなく、ある程度ゆとりが必要だと思います。</p> <p>総務課長</p> <p>今日の議題ではないのですが、新樋の口浄水場の規模を以前、審議会で諮った時に3万8千トンという規模を示しております。全体の水の需要量を考えながら出した答えが3万8千トンということで、経営の面と需要の面と危機管理の面3つを合わせた形で考えております。</p> <p>木村委員</p> <p>今までの説明を聞いて、下水道というのは土の中で目に見えない施設がほとんど</p>
--	---

だし、水道の水も我々市民には、岩木川の水をそのまま持ってきて使っているとか、どこにお金がかかっているのかなと考えないわけではない。それだけにこの問題については市民の了解をどのようにとっていくか。水は命に繋がるものだから、料金を値上げしてもやらざるを得ないわけだから。

いずれにしても、今後の水道料金の値上げを考えた場合は、市民に対してどう理解していただくか、大変だけれど必要なことだと思います。

関委員

新樋の口浄水場について、3万8千トン規模の浄水場を作るという計画について、前年度の説明では、平成36年度あたりから稼働する計画だと伺っています。他の市町村の例と比較しましても、新樋の口浄水場の建設は、総工費100億円規模のプランになると想像しています。

この新樋の口浄水場に関するプランとか計画は、弘前市議会にはいつ頃どのような形で提案されるのですか。

上下水道部長

弘前市経営計画という計画がございまして、新樋の口浄水場の建設については既に議会のご承認をいただいております。

ただ、全体の工事費ですとか事業手法については、現在委託している業務委託の成果品と、審議会でのご審議を経た上で方針を定めて議会に上程という運びになるかと思っておりますので、早く今年度末、遅くても来年度早々には具体的な内容を議会の方にお示しする必要があると考えております。

関委員

新樋の口浄水場のことを私は前にも質問したことがあります。平成26年12月26日のこの審議会の議事録をもとに確認したいと思っております。佐藤部長さんが当時は工務課長さんでした。新樋の浄水場について、平成35年度には運転を開始したい、工事期間が4年ほどかかります。その方式がDBOという方式をとり、その手続きに3年半ほど時間を要するので逆算してきますと平成28年度に方針を出していないと、35年度の運転開始には間に合わないと思っております、とおっしゃっています。

今年の新樋の口浄水場についての見通しを具体的にお話いただけますか。

上下水道部長

昨年度、DBとかDBOの比較をする業務を発注し、すでに専門業者のコンサルタントの方から成果品が上がっております。それを受けていわゆる民間活力を活用した浄水場の建設事業を果たして全国的に弘前市でやりますという業者さんがいるのかどうか。そしてどの程度の金額でできるのか、そういう業務をすでにもう発注しております。それが市に対して11月の下旬頃を目途に示されます。それをもって審議会の皆様にご報告をしながら、一定の方向性を出したいと考えております。

関委員

次の会議がいつになるのかわかりませんが、そのあたりには今の話は中味として報告されるということですか。

コンサルタントの方はいつ頃決まるのですか。

上下水道部長

5月24日には決まります。

成果品について全て公表できるかどうかは吟味しないといけないですが、概要版的なものは当然委員の皆様にお配りして、場合によってはコンサルタントからの説明も想定しております。

関委員

包括業務委託について質問します。26年度、27年度予算には計上されていませんので、本格的に事業として予算化しているのは今年度からということでしょうか。

包括業務委託の導入は予算額も約2億5千万円という大きな額ですので、今年度事業の目玉と言っていいと思います。去年の説明では57項目あるという記憶がありますけれど、主なものだけでもこういうものにこれ位かかって積算していくと2億4千900万円くらいかかるから計上した、というふうな資料が欲しいです。

総務課長

28年度から予算化して包括業務委託を実施しております。

実は、会議の後の報告事項で包括業務委託について報告するつもりでしたが、資料を用意しておりませんで、とりあえず言葉で話して、あとで皆さんの方に資料を送付するというところでよろしいでしょうか。

関委員

その資料はぜひ私も拝見したいなと思っておりますので、よろしく願います。

佐々木委員

公共下水道建設事業で、未整備地区にかかる予算は整備が進むと当然予算が減っていくと思うのですが、だいたい何年くらいで整備完了するご計画なのか、整備の進み具合というのは計画通り進んでいるのか、お聞きしたいと思います。

工務課長

おおよそ予算が決まっていますので、あと数年はかかると思います。

小林委員

樋の口浄水場運転管理業務の予算で、26年度、27年度、28年度にととも増えているのはなぜでしょうか。

上水道施設課長

樋の口浄水場の運転管理につきましては、市の職員の水道技師が全面的に行っておりますが、退職者が増え、その補充は行っておりません。その分を委託しており、26年度、27年度は土日の夜間業務を、28年度からすべての夜間業務について委託した分で業務価格が上がっております。

村上委員

包括業務委託に絡んで、職員の削減数は昨年度と今年度ではどのくらい減少になっているのでしょうか。

総務課長

正職員が14人、再任用が1人、非常勤が11人減っております。

木村委員

退職された職員の技術力は高いものだと思うので、この人たちを2年でも3年でも4年でも再採用すれば、水道事業にとって有益なのではないでしょうか。

総務課長

再任用職員につきましては、今年度は一人もおりません。人件費は経費のうちでも結構大きいシェアを占めておりますので、いかに効率的で効果的な事業をして経営を保っていくかというところが今後求められているものと認識しておりますので、今迄のように技術がある職員が定年退職になって、そのまま上下水道部に残れないのかといっても、再任用で採用される人は現在はおりません。

下水道施設課長

昨年、私が上水道施設課長時代に一緒に働いた再任用職員3名がクボタ環境サービスさんの方に再就職し、今まで培った技術はクボタ環境サービスさんの方で生かされていると思っております。

木村委員

よくわかるけれどもね。60歳そこそこで退職というのはもう10年でも働けるゆとりがある人ですから、業務委託業者として働くのはなんだかもったいないような感じがします。

飯島会長

包括業務委託について今年度から予算化されて、支出が膨らんだように見えますが、これは実際にはほかの部分の費用をだいぶ減らしているという効果があるわけで、その繋がりには完全には試算出来ないにしても、包括業務委託でこれだけかかりますが、このような効果がありますとか、内容をお示しいただけたらと思います。

総務課長

包括業務にかかる費用を試算したところ、27年度では旧営業課、それから上水管路維持係のところでは予算を持っておりました。それがだいたい年間2億7千600万円。委託することによって委託費が当時は3億5千800万円を予定しておりましたその差額が8千200万円なのですが、先程話した人件費26人分を積算しますとだいたい1億500万円、当初試算したのと実際プロポーザルで業者を決めていますので価格が下がっていますが、差引きで2千700万円程の経費削減となっております。

飯島会長

しかし予算と各年度と並べていただくと気がかりなのが、老朽管の更新事業で、これは多分どこの市町村、どこの都道府県でもそうだと思いますが、予算が思わぬ形で膨らんで今後増えていく傾向にあるのでしょうか。それとも更新事業はほぼ達成できるのでしょうか。

工務課長

布設してから20年以上経過した铸铁管、石綿セメント管、ビニールパイプなどをダクタイル铸铁管という耐震性のあるパイプに布設替えするという事で、平成24年から平成33年までの約10年間で事業費を40億円見込んでおり、距離は

約2万8千メートルを予定しています。

今年度の予算は5億5千万円で3,060メートルを予定しているのですが、トータルでまだ28%位しか更新できていないという状況です。これは国の補助事業でもあるので、補助がずっと続けばピッチも早くなっていくのかもしれませんが、今補助金も目減りしている状況です。

管は10年経ったら老朽化していくので、入っている管が常に新しいのではなくてだんだん古くなっていくので、事業はずっと続いていくと思います。ただし今は10年間で計画しているというところです。

飯島会長

国の補助率は老朽管だとだいたい何%くらいですか。

工務課長

3割です。

関委員

老朽管の更新について、以前私がこの会議で聞いたときは40年を目安にしているというお答えを聞いたことがあるのですが、どうなのですか。

工務課長

40年というのは、40年経ったら老朽管になると目安です。それは国の指針でも決まっております。

そのことだと思うのですが。老朽管更新事業をとりあえず10年間で40億円を計上してやっていくということです。

関委員

基本的に40年前に布設されたものを更新していくと、それは変わらないのですね。

工務課長

そうです。

木村委員

40年で更新ということですが、40年前と現在の技術を比べると材料、資材の品質の向上を考えると格段の差があり、耐用年数が10年、20年延びる見込みがあるのではないのでしょうか。

工務課長

水道管はダクタイル鋳鉄管というもので、曲げても伸ばしても圧縮しても鋳鉄よりも数段良い管になっています。継手もロックリングという建設機械で引っ張ってもなかなか抜けないと阪神淡路大震災でも証明されている管ですが、材質がよくなった分、コストは少し高くなっています。

上下水道部長

今回の熊本地震で激甚災害指定ということで、復興費がだいぶ熊本県の方に流れるという情報が入っております。加えて、オリンピック特需というものがございまして、人件費と資機材がだいぶ高騰しております。運賃も材料費も上がっている中で、今後計画どおり進めなくなるということも中期的には考えられます。

先程関委員からお話あった新樋の口浄水場が35年度末の完成というのは、タイ

ミング良くオリンピック特需が少し落ち着いた頃に工事着手ということになると
思います。逆に今頃、工事に取り掛かると3年、4年前から見ると1割、2割高い
人件費、材料を使わざるを得ない。国立競技場のお話と同じようなことが当市でも
起きていたかもしれないです。

従いまして慎重にその辺の財源の確保と進捗率は見極めるということで、今日の
議案の2つ目にアセットマネジメントを用意しましたが、そちらの方で考え方を説
明しながらご理解いただけたらと思っております。

(2) 水道事業におけるアセットマネジメントについて

資料2-1、2-2に基づき事務局より説明。各委員との質疑応答は以下のと
おり。

木村委員

ただいま説明がありましたようにアセットマネジメント計画を市民に公表する
ということは非常に大事なことだと思います。水道料金の値上げということになっ
た時に、市民の了解をいかにして得られるか。職員は市民の皆様になんとしても理
解していただけるように環境を整えていく。このことを市の町会連合会を代表して
出席している者として是非お願いしたいと思います。

関委員

今の木村委員のご意見には大賛成です。

このアセットマネジメントについての考え方は十分理解できます。更新費用の平
準化を図る、収支のバランスを保持する、加えてアセットマネジメント計画を市民
に公表することによりと、ここは特に太字で書いてほしいくらいです。公表すると
なれば、その具体的な方法として広報ひろさきや回覧板、上下水道部のホームペー
ジなど活用してほしいと思います。

あと私が言いたいのは、上下水道部のホームページです。前にも言いましたが、
弘前市全体のホームページはカラフルだし写真やイラストがいっぱい入ってすご
くいいのですが、上下水道部の方に移ると急に文字ばかりです。しかも、文字の大
きさもほとんど同じで何もひっかからない。端的に言って弘前市民から見ればあま
り魅力がないと思います。部長さんも新しくなりましたし、体制も変わりましたの
でぜひもう少し市民がたまに見てみようかなと思うようなホームページにしても
らいたいです。

去年から水道モニター制度が始まりましたよね。あれはいいです。そのようなも
のをどんどん出してほしいです。

上下水道部のホームページは、文字ばかりなので閲覧する市民は少ないのではな
いでしょうか。もっと写真、イラスト、文字の大きさにも工夫、変化をつける、そ
して気楽にホームページを市民が見れるようなものにしていただきたいと思いま
す。

上下水道部長

ただいまの関委員からの発言、私もまったく同じ考えでございます。

情報を出したので見てくださいというよりは、市長がデザインウィークという非常にアカデミックでバラエティーにとんだ施策を展開しているように、上下水道部も6月1日から始まる水道週間で6月4日ヒロロ3階の交流室で利き水大会をして正解するとトートバック差し上げるとか、クイズに答えると何かあげるとか、市民にやさしい、子供たちにもわかりやすい啓蒙活動をして広めたいと考えております。

従いましてホームページの情報掲載にあたっては、子供たちにもわかりやすいようにということを中心に心掛けて、情報整理しながら今後進めていきたいと考えております。貴重なご意見ありがとうございます。

小林委員

今のことと少し関連しているのですが、市民に公表するにあたって広報ひろさき、回覧板、ホームページなどもありますけれど、町内会に入っていない若い方だとわざわざ弘前市のホームページから水道に入ってその内容まで見るということはないと思うので、少し公表の仕方を考えていただけたらなと思いました。

飯島会長

このアセットマネジメントについては遅らせていいことはあまりないので、早くやってほしいのですが、1年半をちょっと超えるくらいの期間がありますけれど、もうちょっと早くできないものですか。だいたいこれくらいかかるものですか。

上下水道部長

膨大な財産を、例えば1,000キロを超えている管の正確な情報と台帳をマッピングシステムというデジタルなデータで電子化して全部すり合わせてリストを作るので今年度いっぱいかかると予想しています。

飯島会長

完全にデジタルでやっているわけではないのですか。

上下水道部長

デジタルになっているのですが、いわゆるお金に係わる台帳の方は総務課が紙ベースで保有しており、そのすり合わせを専門の業者がやることによってかい離している場合は調整する作業があります。シミュレーションの部分もおそらく無限の組み合わせや考え方があり、短期間で年間30億円とか40億円かけないと解消できないもののおそらく出てくると思います。そうなってくると水道事業の経営が破たんしますので、どう平準化するのかという事を一緒に知恵を出しながら考えていかないと来年度にはまとまらないのではないかと思います。厚生労働省からおおむね2年くらいという期間が示されているので、少し切り詰めは頑張りますが慎重にやらないと料金の値上げというタイミングに非常に敏感に反映される可能性がありますので、時間管理もしっかりやりながら業務を進めていきたいと思っています。

齋藤委員

業務発注の公示から決定までの期間が2か月なのですが、この2か月というのは妥当な期間なのですか。短いように感じるのですが。

工務課主幹

現在における発注スケジュールをお知らせいたします。このプロポーザルの手順

に従うスケジュールになるので、一般の入札等とは違います。まず公示は5月下旬で、それから質問の受付をいたします。プロポーザルに対しての質問の回答をして、それから参加表明の手続きの締め切りを6月中旬を予定しております。それから企画提案書を出していただき、その締め切りが6月下旬です。それから第1次審査、第2次審査がありまして、2次審査が終わるのが7月中旬です。そして結果通知が7月下旬という流れになっております。プロポーザルという細かいスケジュールに則って進みたいと思っております。

齋藤委員

わかりました。

飯島会長

これは一般的の業者では受注できない非常に専門的で、逆に専門的な人たちからすると割とシステムチックな仕事なので期間を長くにとって広く募集するという仕組みなのではないでしょうか。

関委員

アセットマネジメントのスケジュールの中には、新樋の口浄水場の件は入るのですか。

上下水道部長

全く入らないわけではないのですが、浄水場は浄水場で一つの流れの中で作業は進みます。ただ、現在の浄水場は平成35年度まで稼働させなければならないので、こちらのアセットのほうには何かしらの形で出てくると思います。方針自体は建設事業のプログラムの中での検討という形になるかと思えます。

関委員

ということは新樋の口浄水場の件は、コンサルタントを中心にそちらはそのプランでいって、今の樋の口浄水場は平成35年度まで稼働しなければいけないから、そこまでの分はこのアセットでは係わることはあるという解釈でよろしいですか。

上下水道部長

ただ、来年度の事業費のシミュレーションの中に新樋の口浄水場にかかる投資額というのは当然入ってきますので、こちらのアセット計画の中にこれらのものが数字として出てきます。

関委員

その分アセットマネジメントもまた一段と重要な事業ですね。これは先程の委員の方が質問しましたが、受注者決定が今年の7月ということであと2か月ですけどそうなれば次回の会議ではここに決まりましたとか報告はあるのですか、これはまた別のものですか。

上下水道部長

今年度、審議会の皆様にはこれだけのものがこれだけありますということしかお示しできないと思います。ですから来年度のシミュレーションのプランをお示しして、Aプランでいくところになります、Bプランですところになりますという風なご説明しながらご意見をいただきながら、優先順位をつけていくというような形になるかと思えます。

関委員

そのシミュレーションプランは29年度になりますか。

上下水道部長

29年度いっぱいにかかると思います。

(3) その他

特になし。

飯島会長

あとほかにございますか。

関委員

上下水道部には、熊本地震のような大規模な災害が起こった時の緊急マニュアルというのはあるのでしょうか。

上下水道部長

あります。

関委員

あるのでしたら次の会議の時に、緊急マニュアルのアウトラインだけでも示していただけませんか。よろしくお願いします。

飯島会長

では、これをもちまして会議を閉じたいと思います。委員の皆様ご協力ありがとうございました。そして、大変闊達なご意見をいただきありがとうございました。事務局の方に進行をお返しいたします。

6 報告

①新樋の口浄水場建設事業について

現在の樋の口浄水場は運転から54年経過し、経年劣化また耐震性能がかなり不足しており、更新の必要性に迫られている。

平成26年度の経営審議会において、樋の口浄水場のダウンサイジングについては、新樋の口浄水場の能力は1日当たり3万8千トンが妥当である、また、樋の口浄水場更新事業は官民連携で行うことが妥当であるとのご意見をいただいた。

これを受け、平成27年度には、樋の口浄水場発注方式比較検討業務を実施し、発注方式として官民連携手法の導入の可能性が高いDB方式、DBO方式について検討した。その中で官民連携の検討手法における簡易判定により、適合性があるとの結果が得られている。

それを受けて今年度は民間活力可能性調査業務を実施し、より詳細なコスト縮減の効果の調査、また民間事業者の参入動向調査を行う予定である。

結果については、11月を目途に経営審議会の方へ提案してまた皆様のご意見を伺いたいと思っている。

②委員の任期について

現在の委員は、11月16日をもって一期目の任期が終了し、ご推薦をいただいている機関の方々については、再度こちらの方からもう一度ご依頼し、続投の場合はそのまま再任となる。

ただ、公募委員については、広く市民の方が参加できるという意図で弘前市附属機関委員の公募実施要領により再任は基本的に出来ないことになっている。近い内に広報やホームページに掲載し募集予定である。

③包括業務について

人口減少に伴い、収入の確保が難しくなっていることから、経費の削減、抑制、経営の効率化、合理化、スリム化等を図り、経営の安定を図るという趣旨である。委託期間は28年度から32年度までの5年間で、受注者は弘前上下水道サービス株式会社で、所在地は茜町3丁目6-1である。この株式会社は2つの会社が1つになったSPCの特別目的会社であり、弘前管工事業協同組合とヴェオリアジェネッツ株式会社東北支店の両社が出資して作った会社である。

委託対象業務は、水道料金等徴収関連業務、滞納整理、窓口受付やメーター交換、漏水修繕関連業務となっている。

委託費は、5年間で12億6千588万円、1年あたり2億5千317万円を予定している。これは、定例的な毎月定例的な作業分で、その外、突発的な業務については出来高払い分として約1億円、合わせて3億5千800万円を予定している。

経費削減額は5年間で1億3千500万円、1年間にすると2千700万円の経費削減になっている。

窓口を、茂森庁舎の外に本庁に2名体制で1箇所設け、サービスの充実を図り機能の強化を図った。

窓口対応時間はこれまで同様午後5時までだが、電話による相談や問い合わせの対応を6時までとした。

職員体制は、弘前管工事業協同組合さんは31人体制、ヴェオリアさんの方は本庁が2人、茂森庁舎が16人、合わせて18人体制になっている。

④引越しについて

5月30日から岩木庁舎で執務開始の準備を進めている。岩木庁舎の1階にはお客さまセンター、総務課のお客様サービス係、給排水係、2階には工務課、総務課総務契約係、経理係の職員が執務することになっている。

⑤次回会議開催予定について

現委員の任期内で開催する予定としている。

その他必要
事項

- ・会議は公開
- ・傍聴者 報道機関 2社